

「衰えと成熟の狭間」

2021.2 遠藤清賢

ドイツ文学者のヘルマン・ヘッセという作家を知っているでしょうか。私が学生時代によく世界文学全集が様々な出版会社から販売されていましたが、その中に必ずヘルマン・ヘッセの著作がありました。特に有名なのが「車輪の下」という作品です。ヘッセの生きた時代は1877年から1962年です。1946年にはノーベル文学賞を受賞しています。30年くらい前だったと思いますが、ヘッセが取り上げられ随筆とか、詩や短い小説などを編集したものが連続的に出版された時があるのです。その中で「人は成熟するにつれ若くなる」という本が出されたのです。購入したのは私が40歳くらいの時だったでしょうか今それを読み返してみると当時はあまり共感できなかつたことが、今、新たに新鮮な思いが湧き出してくるのです。それは肉体の衰えに抗うことなく、自然の成り行きとして自分の命を見つめ続けることが、己の精神を若返らせることであると述べているのです。老人になると体の痛みや、基本的な動き、そして、見ること、聞くこと。味わうこと等の機能が正常に働かなくなるのです。自分に苛立ち、このようになってしまったのは周りにいるあなた達のせいなのだと思痴ることもあるのです。しかし、これは誰のせいでもなく、生き物として自然の成り行きであることを認めなければなりません。ヘッセは老人になっている自分自身の姿を正直に認め、当然のこととして肯定しています。痛みは痛みとして、衰えは衰えとして、怒ることなく、また嘆くことなく、命の経過を見つめ今を感謝し、精一杯に今できることを楽しんで生きた人であったことが著作をとおして知ることができるのです。購入した当時は理解できなかつたことが、自分が老人になり今を生きてみて、その通りであると共感できるのです。この本を購入しておいたことをとても良かったと思うのです。

私自身もすでに本物の年よりになっています。中学生から柔道部で毎日かなりきつい練習をしていたので体力には自信があったのですが、今はまったく思

うように動けなくなりました。それどころか視力は衰え、耳鳴りや、腰痛、膝の痛みなどが出ています。何かをするのに時間がかかるようになりました。また、予定していたことを先延ばししてしまうようになっていきます。确实の体は衰えているのです。しかし、その体を支える精神は衰えているのではなく、穏やかになっているように思います。感覚が穏やかになりそのままの現実を受け入れることができるようになりました。悲観的なことが、楽観的に捉えることができるようになった気がします。体の痛みや日常生活の中で面倒に思うことが増えているのですが、心配なことや不安はあまり感じなくなってきました。今を生かされていることを感謝し、安らかな日常を楽しめる日が続けられることを「良し」とできるのです。若い時にあった、何かが足りない、もっと欲しい、もっとよく働ける、毎日が不安で何もしないでいると競争に負けてしまう、等、飢えて渴ききっているような日常でした。急流を全速力で船を漕いでいたような感覚はなくなっているのです。危険に身をゆだねることが生きている証だと勘違いしていた時代はとうに過ぎていきました。人を思いやる心や優しさなど邪魔な精神だと思い、多少の犠牲は当たり前のこととして過ごしてきたときは本来の人間としてのあるべき姿ではないとようやく気付くことができました。

私は長年クラシック・ギターを演奏してきました。若い時は早いテンポのアレグロで、16部音符や32分音符が連続しているテクニク的に難しい曲を好んで演奏していました。音の質より、いかにたくさんの音を短時間の間に連続して出すことを好んでいたように思います。大声でたくさんの言葉を話すお笑い芸人のような演奏をしていたように思うのです。激しくたくさんの音が出せるのが良い演奏のように思っていたのかもしれませんが、演奏する側はそれで満足していたのかもしれませんが、聞く方たちにはただ楽器を激しく鳴らしているだけで何も伝わらなかったと思います。今は一つ一つの音のつながりを大切にできるようになったと思います。テクニク的には優しいのですが、音楽の深みは比べ物にならないくらい深くなったと自負しています。ギターは連続した音ではなく、不連続な音が響き合い、調和と不調和を繰り返しながら音楽を表現する楽

器です。それぞれの音がお互いにその存在を支え合うのがギターの奏でる音楽です。その音楽の中に実際は鳴っていない音が出ているように聞こえるのが良い演奏だと思えるようになってきました。一つの音が無限の響きのように聞こえるのです。不連続ですので音と音の間は静寂の瞬間があるのですが、その音のない静寂を楽しむことがクラシック・ギター音楽の究極の楽しみ方なのだと思います。音楽を通して音のない時を楽しむことができるようになったのです。そのような演奏を目指すように練習しています。年を重ね経験を積むことによってさらに音楽の楽しさを体験できるようになったと思います。

焦って過ごしていた時は終わりました。絶えず不安や不平、物足りなさを感じていた時代は終わりました。私はすべてが満たされ、支えてくれる環境の中に生きていることによりようやく気が付いたのです。心に余裕がなかった時代は終わります。今のほうが絶対に良い時間であり、幸せなのです。この本はこのような心を取り戻させてくれる本なのです。時間を掛けながら一文字、一文字噛みしめながら読んでいます。